

早稲田大学大学院
ファイナンス研究科 教授

川本裕子さん

Kawamoto Yuko

東京大学文学部社会心理学科卒業、オックスフォード大学大学院経済学修士課程修了。東京銀行、マッキンゼーを経て、2004年から現職。著書に「金融サービスのイノベーションと倫理」(共著・中央経済社)など。



名物教授が語る 早慶の魅力と課題

きら星のごとき大物&個性派が続々

独創的なキャンパス設立を評価
グローバルな視点持つ金融のプロを育てたい

「私」は早稲田出身ではありません。せんので、教授陣の代表選手というわけではないのですが、このような個性的なキャンパスを作った構想力と行動力は、高く評価されるべきだと思います。

川本裕子さんが話す「個性的なキャンパス」とは、2004年に誕生した早稲田大学大学院「ファイナンス研究科」のこと。日本初のファイナンスに特化したMBAとして、金融・財務・企業経営のプロフェッショナルを養成している。川本さんは東京大学からオックスフォード大学大学院に進み、マッキンゼーのバリ支社勤務などを経験した、グローバルな世界を知る金融と経営戦略のプロ。そんな川本さんの目に、ファイナンス研究科の魅力はどう映るのか。

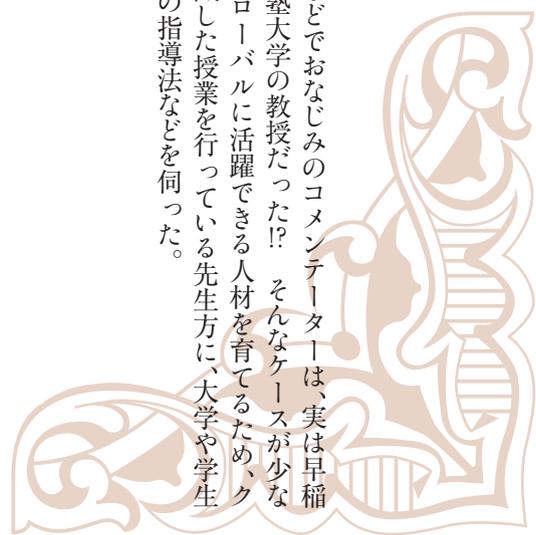
「日本の企業は終身雇用や年功序列といった従来の雇用システムから脱却し、グローバルで活躍できる人材を育てていく変換の時期にきています。それは大学も同じこと。大勢の学生に幅広い知識を与えるだけではなく、特定の分野で高い専門性を発揮できるスペシャリストを育てていくことも必要です。今後はハーバード大学やオックスフォード大学をお手本にした、少数精鋭の専門的対話型の授業の必要性がさらに高まっています。日本橋キャンパスは、アカデミック出身の先生と実務家の先生とが半分ずつで構成されています。時代変化を認識して、早稲田がいち早く、こうした大学院の開校に踏み切ったというのが最大の魅力です」。

立地も魅力に感じるといいます。日本橋の近辺は、銀行や企業の本社が集まるビジネスの中心地。銀行の役員を授業に招いて気軽に議論

テレビや新聞などでおなじみのコメンテーターは、実は早稲田大学、慶應義塾大学の教授だった!? そんなケースが少なくない昨今。グローバルに活躍できる人材を育てるため、クオリティを意識した授業を行っている先生方に、大学や学生への思い、独自の指導法などを伺った。

「学生は卒業生も含めた平均33歳のビジネスパーソン。ビジネスの最前線で働き、さらに上を目指したいという意識で入学してくるので、真剣なものです。時間を有効に使い、体系的な勉強をして、実務に生かしている」といっている。

「世界でビジネスをするには、相手に対して尊敬の気持ちを持ち、多様性を受け入れることが大切。適切な距離を保ちつつ、議論できる力を高めてほしいですね」。





名物教授が語る早慶の魅力と課題



慶應義塾大学
先端生命科学研究所 所長
環境情報学部 教授

富田 勝さん

Tomita Masaru

1957年生まれ。慶應義塾大学工学部数理工学科卒業、カーネギーメロン大学コンピューター科学部大学院修士・博士課程修了。1990年に慶應義塾大学環境情報学部助教授に就任。2005年～07年同学部長。生命科学と情報科学の第一人者。

福澤諭吉の精神が日本再生の鍵 「半学半教」で学生の「独立自尊」を育む

幼

稚舎から大学卒業まで慶應義塾育ちの富田勝さん。卒業後はアメリカの名門工科大学に進み、博士号を取得。その後も教員として計10年間アメリカの大学に在籍していたが、1990年の慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス開校と同時に帰国した。人生の大部分を慶應とともに歩んでいる富田さんは、慶應の校風をどのように感じているのだろうか。

「慶應の最大の特徴は、福澤諭吉の精神が今も無意識のうちに生き続けていること。福澤の理念は、『国が変わるためには、国民一人一人が変わらなければいけない』。つまり、変革は上からの指示だけでは成し遂げられず、一人一人の意識が変わることによって成るのです。いくら総理大臣が代わっても、結局国は変わらない。今の日本に必要なのはまさにこの福澤精神ではないでしょうか。教育にも同じことがいえます。教授が上から目線で学生を指導しても、その知識は学生のものにならない。学生自身が学びたいと強く願ひ、自分の意思で勉学・研究に励む。それがす

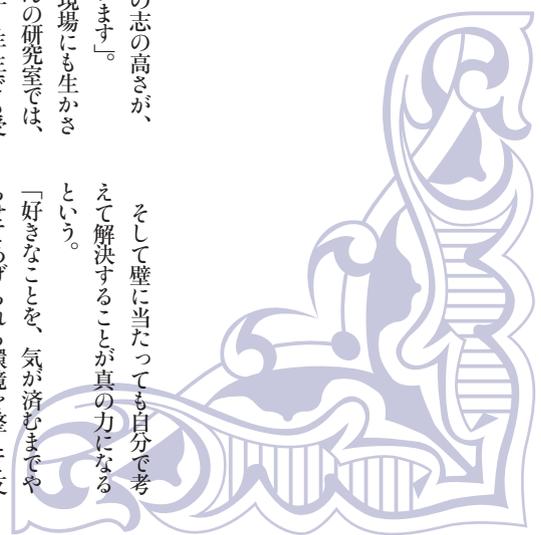
べてなんです。この志の高さが、慶應らしさだと思います。そうした意識は現場にも生かされている。富田さんの研究室では、やる気があれば大学1年生でも受け入れる。そして各学生には上級生の「アドバイザー」が付き、学生同士で研究をサポートする。

「福澤の理念に『半学半教』があります。学びながら教える、という意味ですが、自分が教える立場になれば、中途半端では済まされず、徹底的な理解が必要になります。ですから、教えることには最も良い学びでもあるのです。こうしてお互いを高め合っていくとチームワークも生まれるし、この学生アドバイザーはとても良いシステムだと感じています。」

そして教授の役割は「学生たちにモチベーションを与えること」と、富田さんは言い切る。学生から相談を受ければいつでもアドバイスはするけれど、あれこれ指図はしない。「教授が仕切っている研究室ではその教授を超える人材は育たないからです。」

そして壁に当たっても自分で考えて解決することが真の力になるという。「好きなことを、気が済むまでやらせてあげられる環境を整えて支援する。それが、僕の理想とする教育の現場です。しかし今の学校教育は、試験でいい点を取ることが目的になってしまっている。試験のために勉強したことは、試験が終わるとみな忘れてしまいます。世界で活躍できる人材を育てるために、そんな古い慣例を変えて、慶應はどんどん新しいことに挑んでいます。」

筆記試験ではなく、課外活動などで総合的に人物を評価する「AO入試」を日本で初めて導入したのは慶應だ。また東京大学が5年後の実施を目指すとしている「秋入学制度」も、慶應では20年以上前から既に実施している。「私にとって最大の屈辱は『普通だね』と言われることです。決して現状に満足せず、常に新しいことに挑戦していく。それが慶應義塾の使命でもあり、誇りでもあります。」



国際政局の最前線を歩いたジャーナリストが日本の将来を担う清新な人材を育てる



慶應義塾大学大学院
システムデザイン・
マネジメント研究科 教授

手嶋龍一さん
Teshima Ryuichi

NHKワシントン支局長として9.11テロ中継に携わる。独立後に発表した『ウルトラ・ダラー』、姉妹編『スギハラ・ダラー』がベストセラーに。昨年暮れにノンフィクション大作『ブラック・スワン降臨』（いずれも新潮社）を発表、反響を呼ぶ。

アメリカ同時多発テロ事件当時、手嶋さんはNHKワシントン支局長を務めており、11日間にわたって不眠不休で衝撃的なニュースを伝え続けた。そんな手嶋さんは現在、慶應義塾大学大学院で教授を務めている。

「学生を教えることは正直、僕の人生計画には全くありませんでした。アメリカのダイナミックな大学の経営を目の当たりにした者として、日本の大学は遅れているなあと思っていたからです。一言でいえば、主人公は学生であることを忘れてる。名門といわれる大学ほど学生を振るい落とすことに熱心で、大学側が魅力的な人材を見つけようとしていない。無名だったオバマ青年を脈ありとして採用した、ハーバードのロースクルの見立てはさすがです。そんな折、母校の慶應が新しい学科を開設し、インテリジェンス論の講座を開いてくれと招かれました。日本にはインテリジェンスを教える大学院はありませんでしたから、

革新的な試みだと感じ入って、引き受けました。」

名門の看板におごらず、進化を目指す慶應の心意気が、心を動かしたといえる。では、インテリジェンス論とはどんな分野なのか。

「近未来に分け入っていく武器となるものです。膨大な一般情報から事態の本質を示す情報を選り抜いて分析し、想定外の事態に備えるもの。講義には過去の事象だけでなく、現在進行中のトピックを使って、学生たちとともに未来を予測していきます。過去の事象は結果が分かっていますから、解は簡単に見つかります。昨年はフクシマ原発の事故をテーマに取り上げ、指導部のあるべき決断について考えました。」

手嶋さんが抱える学生は、防衛省や金融庁などからの派遣組も多く、出身大学もさまざま。

「慶應から慶應の大学院へ。もうそんな了見の狭い大学は減んでしまします。世界を見据え、高みから俯瞰する視点が必要です。」

他大学出身者に聞きました！ 早稲田と慶應をどう思う？

- 常識人で知性派
- エリート意識の強いお坊ちゃま
- 早稲田を気にしている
- 付き合いにお金がかかりそう

K

- 体育会系のアイデアマン
- 千差万別だがタガの外れた人が多い
- 最近はお粒になった
- 職業政治家の温床

W

編 集部ではアンケート調査を実施し、他校の出身者に「早慶についての印象」を尋ねた。まずは早稲田。使用頻度の高かったフレーズは「自由闊達」「体育会系」「頭がいい」「質素儉約」「スポーツマン」「芸能人が多い」「マンモス大学」「人脈がでさる」など。人名では「斎藤佑樹」が断トツの多さで、早稲田「スポーツ」というイメージが広く根づいているようだ。素直に「応援したい」「羨ましい」との意見も見られたが、その一方で「スポーツ選手をかき集めている。某金満プロ野球チームを連想」（大阪大卒）、「出身大学を鼻にかける。出身校が最大のセールスポイントとは寂しい」（明大卒）とのしんらつなコメントも。有名大学はやはりシビアな見方をされるようだ。

慶應で目立った言葉・フレーズは「お嬢さん・お坊ちゃん」「上流階級」「お金持ち」「紳士」「意外にタフ」「団結力がある」など。早稲田と同様に、「全国各地に三田会があり、他校出身者にはちょっと不愉快」（専大卒）、「早稲田より学校名の自慢は少ないが、そのぶん三田、日吉という地名を会話に織り交ぜる」（東工大卒）といったコメントも。両校の出身者は、反感を買わない程度に気を付けたほうがいいかもしれません。